

「～と思っている」に関する考察

——配慮表現の立場から——

王 瑞舒 (創価大学大学院 博士前期課程修了生)

要 旨

「と思っています」については、アスペクトなど様々な観点からアプローチしている先行研究は多い。しかし、「と思っています」がどのような発話場面で使用され、いかなる対人的機能を有するのかについて言及しているものなかった。

『国会会議録』をもとに、実際に日本語母語話者にインタビューとアンケートを実施した。それにより、筆者の仮説である「と思っています」には配慮があるということが立証された。そこから、山岡(2008)・山岡他(2010)をもとに、「と思っています」の発話機能を分類し、《依頼》、《感情表出》、《忠告》、《意志表明》、《主張》、《承認要求》の六つの機能があることがわかった。

キーワード：と思っています、と思っております、と思います、配慮表現

1.はじめに

さまざまな学会の大会やシンポジウムに参加し、そこでの研究発表に耳を傾けると、「～と思っています」という表現がよく使われている。日常会話では、自分の意見や気持ちを述べる時は「～と思う」がよく使われるが、なぜ研究発表では、「と思います」ではなく、「と思っております」が頻出するのだろうかという疑問に思い、興味が湧くようになった。

本研究では、「述語＋と思っています」を配慮表現の一種と考え、この表現がどのように使用されるのかについて明らかにすることを目的としている。

研究方法として、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』より『国会会議録』を調査し、モダリティと日本語文法の知識を用いたデータ分類を行なった。また、実際に日本語母語話者にインタビューとアンケートを実施し、『国会会議録』からの実例と併せて、「と思っております」の機能とその配慮の様相を明らかにすることを試みた。

そして最後に、本研究で明らかになったことから、それを日本語教育にどのように応用するかについて述べた。

2.文法書での記載

グループジャマシイ『日本語文型辞典』(1998)と日本語記述文法研究会編『現代日本語文法4』(2003)では、「と思う」と「～と思っている」についての記述がある。

後者では、「～と思っている」は「～と思う」が話し手の思考しか表せないのに対し、「話し手以外の思考も表せる」とある。また、引用節の内容の真偽について、その思考主体(他が話し手自身あるいは他者であるか)によって、意味が異なることも記述されている。

3. 先行研究

3.1. アスペクトの観点から

3.1.1. 阿部(1998)

阿部(1998)は、動詞「思う・考える・信じる・分る」について、一人称あるいは二・三人称と付く場合のそれぞれの相違点を述べ、主語が違った場合、思考動詞のル形とテイル形に違いがあることを考察した。

3.2. モダリティの観点から

3.2.1. 益岡・田窪(1992)

益岡・田窪(1992 : p124)では、「と思う」は意志を表すモダリティとして扱っており、「話し手がある動作を行なう意志を相手に告げる」際に用いると説明している。

3.2.2. 宮崎(1999)、(2001)

宮崎(1999)では、「と思う」と「と思っている」の区別は人称制限の有無であると述べ、「と思っている」は積極的偽であることを含意すると述べている。

(1)(亡くなった親友について)僕はあいつはまだ生きています {×思う/○思っている}

「と思う」より、「思っている」は信念や強い期待といったニュアンスを含む。

(2)僕は阪神が優勝すると {○思う/○思っている}

3.2.3. 小野(2005)

「ト思う/ト思っている」の認識方法の選択基準と、伝達方法の選択基準について述べる。

まず、「認識レベルの観点」について、①直観的な把握、②蓋然性との関わり、③特定化したもの、ある範疇のものを全体として、認識のありように影響を与えることという三点から述べている。

3.2.4. Iwasaki(1993)

Iwasaki(1993)では、一人称主体の文でも、「絶対に」や「間違いなく」という語句と共に起させると、(3')のように「思っている」述語文が非文となると判断し、その理由として「話し手は『思っている』よりも、『思う』を用いることで、強い確信を表現できる」からだと言明している。

(3) 僕は絶対にジョンが犯人だと思う。

(3') *僕は絶対にジョンが犯人だと思っている。

3.2.5. 橋本(2003)

橋本(2003)では「表出+思っている」の用法は、アスペクト的な副詞がない場合、「と思う」「思っている」どちらも使用できる場合が多いと述べた。

一方で橋本は、「判断文+思っている」の用法は単なる「一定期間の思考の継続」というだけでなく、話し手の「信念」や「こだわり」といった強い主張が感じられると述べた。

3.3.日本語教育の立場から

3.3.1.桑山(2007)

学習者の誤用例を見出し、母語話者が違和感を覚える要素を詳しく分析したのは、桑山(2007)である。

(4)彼は異動させられると思っています。

無人称文であっても、文末表現が「と思います」であれば、話し手の語りだと特定できる。しかし、「と思っています」であれば、「思う」の主体が特定できない曖昧さが残る。

3.4.「テイル」に関連する先行研究

3.4.1.金水(1989)、柳沢(1994)

テイル形機能の本質について、まず挙げられるのは金水(1989)である。動詞テイル形には観察情報を報告する機能があることを指摘している。

柳沢(1994)では、テイル形は観察によって得た情報そのものではなく、それを解釈したり、取捨選択したりした結果として得られる二次的な情報に変えてしまう、としている。また、引用、要約において「作者は次のように語っている」、「……場面はこう描かれている」のようなテイル形の使用頻度が高くなることや、解説文においてテイル形の使用頻度が高いことなども柳沢は挙げている。

3.4.2.谷口(1997)

谷口(1997)では、アスペクトというカテゴリーとは別に、テイル形に本質的に備わっている3つの性質(客観性、現象描写性、報告性)について、主にル形と対比した。

3.4.3.山岡(2000)

山岡(2000)は、関係動詞について、ル形とテイル形の違いを論証した。この研究以前の先行研究では、この両形について「同じ意味」としている。しかし、山岡は述べた照合行為の成立の仕方という点から見れば、両者にも微細な差異を見出すことができるとのべている。

[可能動詞]

(5)a.うちの子は上手に泳げる。 <属性叙述> [潜在相・超時]

b.うちの子、今日は上手に泳げているわ。 <状態描写> [実現状態相・現在]

[属性動詞]

(6)a.綿棒は傷の治療に役立つ。 <属性叙述> [潜在相・超時]

b.傷の治療に綿棒が役立っている。 <状態描写> [実現状態相・現在]

一方、山岡は思考表出動詞「思う」の発話機能についても論述し、《情意表出》、《主張》、《意志表出》、《宣言》、《助言・忠告》、《依頼》の6項目を挙げた。

3.4.4.定延・マルチュコフ(2006)、定延(2006)

定延・マルチュコフ(2006)では、伝統的な「ている」の用法を(i)「継続」と「繰り返

し」(ii)「パーフェクト」(iii)「経験」と「記録」としている。定延は「『ている』はエビデンシャル(情報源)の一種である」という考えを提案した。

以上、「～と思っている」に関する先行研究はいろいろある。しかし、それらがどのような発話場面で使用され、どのような対人的機能を有するののかについては言及するものが見当たらなかった。また、実際の談話における用例を十分に確認しているものもなかった。

4. 配慮表現に関する諸理論

まず、グライス(1975)の協調の原理とリーチ(1983)のポライトネスの原理、B&L(1987)のポライトネス理論を確認した。

生田(1997)において、「配慮表現」と「ポライトネス」の違いが論じられた。ポライトネスは言語行動の選択に関する理論であり、それに対して配慮表現はある言語行動の中の表現の選択に関する理論である。

山岡他(2010)は「配慮表現」に関して、「対人的コミュニケーションにおいて、相手との対人関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられる言語表現」と定義した。

山岡の「発話機能論」は、Searleの発話行為論における発話行為とHallidayの機能文法における発話機能を統合した新たな「発話機能」の分析枠組みであり、発話行為論の適切性条件(felicity condition)を言語哲学的分析から、言語学的分析に特化させた語用論的条件を中心に、意味範疇を理論体系化したものである。

5. データ分析

本研究ではまず、『名大会話コーパス』、『女性のことば・男性のことば』、『国会会議録』の三つのコーパスを調べた。しかし、『名大会話コーパス』と『女性のことば・男性のことば』の中には、研究対象である「～と思っています・～思っております」の用例が少ないため、本稿では『国会会議録』のみ扱うことにする。

6. 仮説検証—インタビューとアンケート調査—

インタビューを通して、「断定的・非断定的」、「弱い・強い」、「主張」、「進行している」、「事実・共同認識」、「言い回し」など、いくつかのキーワードが見えてきた。

一次アンケートでは、インタビュー結果から作った仮アンケートの実施結果が、筆者が立てた仮説を明らかにするのに有用性があるかどうかを検証した。

検証にあたっては、SD法(意味微分法)を用いて、アンケート結果の平均値を算出した。一次アンケートを行なう中で出てきた問題を解決するために、二次アンケートも行なった。

その結果、筆者の仮説は立証されることとなり、「～と思っています・～思っております」には配慮が含まれていることがわかった。

7. 配慮表現としての「と思っています・とっております」

インタビューとアンケートの調査によって、「と思っています・とっております」を（策動）と捉え、その下位範疇《依頼》、《意志表明》、《忠告》での配慮表現について考察した。配慮表現としての「と思っています・とっております」が持つ発話機能について、《依頼》、《意志表明》、《主張》、《承認要求》の四つに分類して記述した。

8. 日本語教育への応用に向けた提言

現行の日本語教科書では、「と思っています」の用法説明に関しても、教科書によって、それぞれ解釈が異なり、「と思っています」の文法項目は統一されていない。しかし「と思っています」には六つの発話機能があることを考えると、現行の日本語教科書の「とっております」の用法説明では不十分である。

以上のことを踏まえて、本章では、「と思っています」は、話者の命題内容に対する心的態度を伝達する表現として導入すべきだということを提言している。

9. おわりに

「と思います」と「と思っています」を区別する基準は二点である。一点目は、話者が《依頼》・《感情表出》・《忠告》・《意志表明》・《主張》・《承認要求》を表したい場合、「と思います」を使うより、「と思っています・とっております」を用いた方が、語気を弱め、緩和表現となって聴者に伝達されるということである。

二点目は、感情表明や忠告の場面では、「と思っています・とっております」を使った発話がでは、聴者に思いやりと丁寧さを感じさせる効果があるということである。

今後の課題としては、他のコーパスにも当たることや、本稿で扱った九つの文例以外の「述語＋と思っています・とっております」と「述語＋と思います」の間での語気の強弱についても考察を加えたい。また本研究では、日本語母語話者の使用例に着目して分析をしているが、日本語学習者はこれらの表現をどのように使っているのかという実態把握も課題の一つである。

参考文献

- 足立さゆり (2000) 『『思う』と『思っている』について：日本語教育の視点から』『国文白百合』
- 阿部保子 (1998) 「思考動詞のテイル形に関する一考察」『北海道大学留学生センター紀要』、12
- 小野正樹 (2000) 『『ト思う』と『ト思っている』について』草薙裕(編)『現代日本語の語彙・文法』くろしお出版
- (2005) 『日本語態度動詞文の情報構造』ひつじ書房
- (2011) 「日本語引用表現の分類試案」『日本語コミュニケーション研究論集』第1号
- 金水敏 (1989) 『『報告』についての覚書』仁田義雄・益岡隆志編『日本語のモダリティ』くろしお出版

- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』 ひつじ書房
- グループ・ジャマシイ編著 (1998) 『日本語文型辞典』 くろしお出版
- 桑山京子 (2007) 「思考動詞「思う」の文末表現について(糸井通浩教授退職記念号)」『國文學論叢』 52 A127-A140
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味 第Ⅱ巻』 くろしお出版
- 定延利之 (2006) 「心内情報の帰属と管理—現代日本語共通語の『ている』のエビデンシャルな性質について—」中川正之・定延利之(編)『シリーズ言語対照 2 言語に現れる「世間」と「世界」』くろしお出版
- 定延利之・マルチュコフ (2006) 「エビデンシャルリティと現代日本語の『ている』構文」中川正之・定延利之(編)『シリーズ言語対照 2 言語に現れる「世間」と「世界」』くろしお出版
- 砂川有里子 (1986) 『セルフマスターシリーズ2 する・した・している』くろしお出版
- 谷口秀治 (1997a) 「テイル形に関するムード的側面の考察」『日本語教育』 92 号
(1997b) 「テイル形の3つの性質(客観性、現象描写性、報告性)について：ル形との対比から」『広島大学留学生センター紀要』 no.7
- 橋本直幸 (2003) 『『～と思っている』について—日本語母音話者と日本語学習者の使用傾向の違いから—』『日本語文法』くろしお出版
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会編 (2003a) 『現代日本語文法④ 第8部モダリティ』くろしお出版
(2003b) 『現代日本語文法⑥ 第11部複文』くろしお出版
- 中右実 (1994) 『認知意味論の原理』大修館書店
- 益岡隆志 (1991) 『モダリティの文法』くろしお出版
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法 一改訂版—』くろしお出版
- 宮崎和人 (1999) 「モダリティ論から見た「～と思う」」『待兼山論叢 日本学篇』大阪大学文学会
(2001) 「動詞「思う」のモーダルな用法について」『現代日本語研究』大阪大学大学院文学研究科日本語学講座
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃 (2002) 『モダリティ』くろしお出版
- 森山卓郎 (1992) 「文末思考動詞『思う』をめぐって—文の意味としての主観性・客観性—」『日本語学』 11, 9-13
- 蓮沼昭子 (1992) 「日本語の談話マーカー『だろう』と『じゃないか』の機能—共通認識喚起の用法を中心に—」小出記念日本語教育研究会論文集アーカイブ
- 山岡政紀 (2011) 「『～と思う』構文の発話機能に関する対照研究」『日本語コミュニケーション研究論集』第1号 日本語コミュニケーション研究会
(2008) 『発話機能論』くろしお出版
(2000) 『日本語の述語と文機能』くろしお出版
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現』明治書院
- 柳沢浩哉 (1994) 「テイル形の非アスペクト的意味——テイル形の報告性——」『森野宗明教授退官記念論集 言語・文学・国語教育』三省堂
- 横溝紳一郎 (1997) 「文末思考動詞「思う/思っている」の違いをめぐって」『名古屋学院大学日本語学・日本語教育論集』第4号
- Iwasaki, Shoichi (1993) *Subjectivity in Grammar and Discourse* John Benjamins Publishing Company, Amsterdam/Philadelphia.

- Shinzato, Rumiko (1991) "Epistemic Properties of Temporal Auxiliaries: A case Study for Okinawan, Japanese and Old Japanese" *Linguistics* 29.
- Brown, P. and S. Levinson (1987) *Politeness: Some universals in language Usage*, Cambridge University Press.
- Grice, H.P. (1975) "Logic and Conversation", *Syntax and Semantics 3 Speech Acts* New York Academic Press
- Leech, G (1983) *Principles of Pragmatics*, Longman(邦訳:池上嘉彦・川上誓作訳(1987)『語用論』紀伊國屋書店)
- Levinson, S. C (1983) *Pragmatics*, Cambridge University Press(邦訳:安井稔・奥田夏子訳(1990)『英語語用論』研究社出版)

コーパス

- 『名大会話コーパス』
- 『女性のことば・男性のことば』
- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』より『国会会議録』

教科書リスト

- 『初級日本語 上』東京外国語大学留学生日本語教育センター(著)凡人社 2010.3
- 『初級日本語 下』東京外国語大学留学生日本語教育センター(著)凡人社 2010.3
- 『日本語直接法で教える』東京外国語大学留学生日本語教育センター指導書研究会(編集)東京外国語大学出版会 2009.5
- 『みんなの日本語 1』(中国語版)スリーエーネットワーク 2008.9
- 『みんなの日本語 2』(中国語版)スリーエーネットワーク 2008.9
- 『みんなの日本語初級Ⅰ 教え方の手引き』スリーエーネットワーク 2000
- 『みんなの日本語初級Ⅱ 教え方の手引き』スリーエーネットワーク 2000
- 『標準日本語 上 修訂版』光村図書出版株式会社・人民教育出版社 人民教育出版社 1988
- 『標準日本語 下 修訂版』光村図書出版株式会社・人民教育出版社 人民教育出版社 1988

(王瑞舒、創価大学大学院博士前期課程修了、wrs_changchun@hotmail.com)